

ちよつといし話

～ 善哉 ～

昔、TVで「蝶々、雄二の夫婦善哉」という、お二人が司会をした面白い番組がありました。この番組は、すばらしい御夫婦の話を面白可笑しく紹介したものでした。「善哉」という言葉は中国で使われ日本に伝わってまいりました。「善哉」とは褒め言葉であり、特に相手を褒める時に使います。大抵は目上の方が下に対して使うことが多い言葉です。『論語』の中にも「子曰、善哉問、先事後得、非崇徳與、攻其悪、無攻人之悪、・・・」これは孔子が問に対して、「すばらしい質問だね」と褒めて答えています。孔子は《「取らぬ狸の皮算用」計画倒れにならないように良い事は、まず実行しなさい、そして、他の人の欠点を責めずに、自分の欠点を直しなさい。それが道（道徳）というものです。・・・》だいたいこんな内容だと思います。真実でも人を「そすれば」悪口と言ひ仏教では禁じています。伝来してきた、「お経」の中にも随所に「善哉、善哉」と出てきます。例えば『大楽金剛不空真実三麻耶經』には「善哉善哉大薩埵、善哉善哉大安楽、善哉善哉摩訶衍、善哉善哉大智慧、」あります。我々は常に「楽」を求めて生活をしています。ただ、求める「楽」も一過性に成り易く終世続く「楽」は求めても求めにくいものです。昔から、夫婦と成り苦楽を共にしますと誓います。苦海に沈むのか、楽天に登るのか、同じ状況の中に於いて、苦と感じる者、楽とを感じる者、に分かれます。人間の行動は「六根」の所作によります。六根とは「眼、耳、鼻、舌、身、意」です。この六根を清浄（清く、正しく、美しく）に出来れば苦も楽に変える事が可能に成ってきます。これが「善哉善哉大安楽」の意味であると思います。

慳 慳（正直に行こう）

善入院油掛地藏尊